

## 幼児吃音の疫学研究

感覚機能系障害研究部 酒井奈緒美

吃音とは、ことばの最初の音を繰り返す（例：あああありがとう）、引き伸ばす（例：あーーありがとう）、また最初の音が出てこない（例：・・・ありがとう）という三つが主な症状です。幼児期に主に発症しますが、その多くは数年後に消失することも報告されています。海外では、これらの発症率・回復率についての信頼性の高い研究がありますが、日本ではデータが不足しています。当研究室は他の研究機関と共同で、日本における幼児期の吃音の発症率・回復率、および発症・回復に関連する要因を調べてきました。

3歳児 2,000人弱を対象に吃音の有無を調べ、その後彼らを5年ほど追跡し、調査時点での吃音児の割合（有症率）、その時点までの発症率（累積発症率）、その時点までの回復率を算出しました。その結果、①有症率は3歳時点で最も大きいこと、②累積発症率は4歳で10%程度になり、その後大きく増加しないこと、③吃音発症から3年後には8割程度の回復率を示すこと、が明らかになりました。今後、これらの発症・回復に関わる要因について分析を進める予定です。